

平成21年度 九州クルーズ振興協議会 総会資料



ラブソディ・オブ・ザ・シーズ(於.博多港)

日時：平成21年5月25日(月) 13時30分～
場所：福岡合同庁舎新館7階 九州運輸局 海技試験場



九州クルーズ振興協議会

議題(1) 平成20年度 事業報告

1. 総会・諸会議等

★ ～平成20年度九州クルーズ振興協議会総会開催～

九州クルーズ振興協議会では、平成20年度総会を6月4日午後1時30分より合庁新館7階海技試験場にて開催しました。田中本協議会会長（九州経済連合会副会長）、細川九州運輸局次長の挨拶後、田中会長の議長就任により議事が進行されました。

議 題：

- (1) 平成19年度事業報告について
- (2) 平成19年度収支報告について
- (3) 平成20年度事業計画（案）について
- (4) 平成20年度予算（案）について
- (5) その他

講 演：九州におけるフライ&クルーズの展望について

講師：商船三井客船株式会社

営業部次長 商品企画グループリーダー 小出文隆

参加者： 44 人

各議題については、反対意見はなく、承認されました。



【議長 田中会長】



【会場：総会風景】



【細川 次長 挨拶】



【質疑：郵船クルーズ（株）田中 氏】



【質疑：（有）シーマンシップ 伊豆 氏】



【質疑：長崎県観光振興推進本部
前嶋 氏】

★ 平成20年度 幹事会開催

日時：平成20年4月23日（水）13：30～15：30

場所：福岡合同庁舎新館7階 九州運輸局調停室

- 議題：（1）平成19年度事業報告について
（2）平成19年度収支報告について
（3）平成20年度事業計画（案）について
（4）平成20年度予算（案）について
（5）その他

2. 会員の状況

平成21年4月1日現在の九州クルーズ振興協議会の会員は、国の機関（3）、県市町村等自治体（14）、旅行者・観光関係法人（40）、個人（1）の計58会員です。

新入会会員

申請日：平成20年4月1日

団体名：大分県中津港利用促進振興協議会

代表者名：会長（中津市長）新貝 正勝

オブザーバー参加等

- ① 福岡検疫所
- ② 門司税関
- ③ 長崎税関
- ④ 福岡入国管理局博多港出張所
- ⑤ 第十管区海上保安本部（平成21年4月7日入会願い）
- ⑥ 第七管区海上保安本部（入会予定）

現 会員： 58会員（平成21年4月1日現在）

新 会員： 1会員（第十管区海上保安本部）

会員合計： 59会員

3. 宣伝活動

(1) クルーズ船入港関係

★ ラプソディ・オブ・ザ・シーズ博多港初入港

「市民船内見学会」実施（4月27日、5月4日の2回）

世界最大規模のクルーズ会社「RCI ロイヤル・カリビアン・インターナショナル」の大型客船「ラプソディ・オブ・ザ・シーズ（78,500トン、旅客定員2,435人）」が博多港へ初めて寄港しました。

本船は、アジア定期クルーズとして、4月から5月に6回寄港し、博多は勿論、日本初寄港でした。

協議会では、福岡市港湾局にお願いをし、日本総合代理店でありますミキ・ツーリストのご協力を得まして、4月27日（日）と5月4日（日）の2回の市民見学会を開催しました。

見学会応募者多数の中から、抽選にて140人が当選され、ミキ・ツーリストの担当者の案内と説明により、大型客船「ラプソディ・オブ・ザ・シーズ」の船内各設備を約1時間半をかけ、ゆっくりと船内見学をしました。見学者の中には、すでに海外クルーズ経験者の方もおり、カリブ海クルーズを計画中の方や、女性のグループでは、次のクルーズ航路である、アラスカクルーズを予約したいとの会話も聞こえました。この、見学会を機会に、九州でのクルーズ人口の拡大に繋がっていくことを願っています。

4月27日（日）は80人の見学者が、5月4日（日）は60人の見学者がありました。

九州各地においても、見学会を開催しクルーズ人口の裾の拡大を図って頂きたいと思えます。

福岡 6回（4月5日、11日、15日、20日、27日、5月4日）寄港。

長崎 1回（4月10日）寄港。



【中央埠頭着岸作業中の勇姿】



【ツアー客の乗車を待つ、バスの列】



【着岸状態は流石に大きい】



【国際ターミナルでの受け付け】



【五層吹き抜けアトリウム】



【船内ダイニングルーム】



【イベント大ホール】



【カジノルーム】



【広いオープンデッキ】



【船内最上階の展望室】



【入り口での入場者チェック】

★ 客船「コスタアレグラ COSTA ALLEGRA」博多港初入港歓迎式

7月9日（水）、イタリア船籍のクルーズ客船「コスタアレグラ」号が博多港に初入港し、記念式典が行われました。同船は今年10月までに、天津港発が5回、上海港発が11回の計16回博多港に寄港する予定で、寄港する港は、天津、上海、濟州島、博多、鹿児島、長崎が予定されています。

船舶要目：総トン数：28,430トン 全長：187.7m 船幅：25.8m

喫水：8.2m

航海速力：20.5ノット 最大旅客定員：1,072人 乗組員数：450人

船籍：イタリア

1969年コンテナ船として竣工後、1992年クルーズ客船に改造された。



【船内見学会へ向かいます】



【船首方向からのコスタ全景】



【乗船客への観光案内】



【岸壁付近の歓迎のぼり旗】



【吉田福岡市長とコスタ船長】



【デッキプール】

(2) クルーズセミナー&船内見学会等

★「飛鳥Ⅱ」クルーズセミナー&船内見学会開催

主催：(社)日本外航客船協会、鹿児島県、九州クルーズ振興協議会

日時：平成20年11月9日(日) 12:45~15:00

場所：「マリポートかごしま」岸壁に停泊中のクルーズ客船「飛鳥Ⅱ」船内

挨拶：九州クルーズ振興協議会代表挨拶(岸本九州運輸局次長)

末永船長への記念品贈呈(黒千代香&さつま焼酎)

11月9日、マリポートかごしま(2007年3月供用開始した鹿児島市沖の旅客船専用バース)に「飛鳥Ⅱ」が寄港することに合わせ、鹿児島県の募集企画があり、見事当選した招待者約140人がクルーズの魅力の一端を堪能しました。

招待者は、九州クルーズ振興協議会、鹿児島運輸支局、鹿児島県並びにJTBスタッフの誘導で船内のギャラクシーラウンジに誘導され、まず、飛鳥Ⅱクルーズの紹介DVDを鑑賞しました。

次に、当行事に協賛しています九州クルーズ振興協議会を代表して岸本九州運輸局次長が、クルーズ普及の意を込めた挨拶と飛鳥Ⅱの末永船長に鹿児島港寄港に感謝を込めた記念品(黒千代香、さつま焼酎)の贈呈を行いました。

続いて、JTB首都圏ロイヤルロード銀座クルーズデスク藤本総支配人による「クルーズの愉しさ」と題したクルーズセミナーがあり「クルーズの一番の心配は船酔いがあるが、大型船は縦揺れも横揺れも問題ない。料金もリーズナブルプランあり。フォーマルの着替えもスーツ程度でOK。気軽な感じで是非1度乗船してみてください。」とPRがあり、さらに、「通常、旅行はスーツケースを持って移動しますが、クルーズは部屋が移動するので次の日はもう別世界です。」とクルーズ旅行の良さを強調されていました。

この日は、南国鹿児島も曇天で気温20度と少し肌寒い感じでしたが、招待者は熱心にセミナーに耳を傾けていました。

この後、招待者は20人程度に分かれて船内を見て回り、そのゴージャスさに思わず「い

いなあ〜」の連発です。招待者の中には「こんな移動する豪華ホテルで是非クルーズ旅行をしてみたい。でも、クルーズ後の現実とのギャップ克服が大変そう。」と不安がられていましたがクルーズ旅行への夢が膨らんでいるようでした。

九州クルーズ振興協議会は、今後も九州管内の港へのクルーズ船誘致が実現できるようクルーズポスター展実施やリーフレット配布等の広報活動を行うとともに1人でも多くのクルーズ愛好者が生まれるよう、クルーズセミナー等の普及活動の実施に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

【飛鳥Ⅱの概略】

1990年に建造され「クリスタル・ハーモニー」の名前でデビュー、2006年3月に飛鳥Ⅱとして生まれ変わりました。総トン数50,142ト、全長241m、速力23ノット、旅客定員800人の郵船クルーズ(株)が所有する日本屈指の大型客船です。



【マリポートかごしま着岸の飛鳥Ⅱ】



【参加者乗船開始】



【岸本次長挨拶】



【船内見学中の参加者】

☆ 長崎港に3月5日、「クイーン・ヴィクトリア」が日本初寄港 ～前夜祭には、池田良穂先生によるクルーズ講演会開催～

2007年に就航したクルーズ界の老舗、英国「キュナード社」の「クイーン・ヴィクトリア」(9万総トン)が世界一周クルーズでの日本初寄港で長崎港だけに入港しました。

「クルーズながさき」設立準備会事務局では、長崎入港記念として、前日の3月4日、16時30分より長崎ANA全日空ホテル・グラバーヒルにおいて、「クルーズ先生として有名

な、大阪府立大学大学院の池田良穂教授による「クルーズ講演会」を開催しました。

講演内容は、「クルーズ誘致と地域観光の活性化」と題し、世界のクルーズ船の推移、現代クルーズ産業の現状、日本のクルーズ船の変遷から長崎起点クルーズの提言など、興味深いお話を聞かせて頂きました。



【全長294mのクイーン・ヴィクトリア】

(3) 広報誌配付・クルーズポスター展等

☆ 「クルーズ船旅の魅力」完成・会員に配布（7月11日）

平成19年より、企画・編集を重ね、平成20年の総会において事業計画として協議会パンフレットの作成・配付を予算計画と共に、ご承認いただき、九州地方整備局、会員の船社及び会員の皆様のご協力を得まして、クルーズリーフレットの配付をさせていただきました。

2007年の我が国のクルーズ人口は、対前年度比3.9%増の18万4千人と発表されました。業界では、これを50万人市場へと目指して頑張っております。

九州域内には、今年も内外多数のクルーズ客船の寄港が予定されております。

今後のクルーズ振興を図るため

にも、本パンフレットを利用し、クルーズ客船への関心・魅力を沢山の市民の方々に知っていただき、クルーズ客船でお越しのお客様に、九州での温かい心のこもったお持てなしを広め、更に九州をアピールしていきたいと思っております。

また、九州からもクルーズ客船に乗船され、クルーズの魅力に触れられる方が一人でも増えていくことを願いながら、配付させていただきました。



☆ クルーズポスター展開催

開催日：7月26日（土）

場 所：関門海峡クルージングフェリー船内にて

下関市 「フェリーくるしま」（関西汽船(株)所有船）

北九州市 「フェリーながと」（阪九フェリー(株)所有船）

・ 下関市 「フェリーくるしま」でのポスター展



ポスター展準備（フェリー船内）



ポスター展開始（フェリー船内）



ポスター展アンケート開始

・ 北九州市「フェリーながと」でのポスター展



ポスター展示準備（フェリー船内）



ポスター展開始（フェリー船内）



アンケート回収（フェリー船内）

・ 局(福岡合同庁舎事務室内)でのプレ・ポスター展



プレ・ポスター展（運輸局にて）



プレ・ポスター展（運輸局にて）



ポスター展配布パンフレット

(4) ミニクルーズ等

★ 第3回上五島教会めぐりウォーク&クルーズ

主催：探訪～“四季を味わう上五島”実行委員会

共催：九州クルーズ振興協議会

日時：平成20年10月11日（土）～12日（日）

参加者：132人（町内54人、島外78人）

今年は、11月に鹿児島での「飛鳥Ⅱ」クルーズセミナー
&船内見学会開催が予定されましたので、当協議会からの参加はしませんでした。

実行委員会から、参加者からは「自然景観がすばらしかった」「上五島にまた訪れたいと思った」「クルーズは価値があり、来てみて本当によかった」などうれしい声が寄せられましたとの報告がありました。



【第3回ウォーク&クルーズポスター】

4. その他活動

★ クルーズ商品等への後援名義の付与

- ・地域ミニクルーズの推進

平成20年10月11日（土）～12日（日）

「上五島教会めぐりウォーク&クルーズ」への後援名義

- ・九州フライ&クルーズの推進

平成21年3月16日（月）～18日（水）

にっぽん丸「春の屋久島クルーズ」への後援名義

★ 日韓海峡観光シンポジウム開催

～日韓海峡沿岸クルーズ観光活性化のために～

主催：日韓海峡沿岸観光交流会

日時：平成20年10月21日（火）～23日（木）

場所：ホテル現代コンベンションホール

★ 伊豆 美沙子 講師による第29回九州運輸コロキウム開催

日時：12月9日（火）13:00～15:00

会場：ホテルセントラーザ博多 3階 橋の間

参加者：52人

主催：（財）九州運輸振興センター

第29回九州運輸コロキウムが開催され、当協議会会員の伊豆美沙子氏の講師により、物流関係者を前に「テーマ：変貌を遂げる東アジアクルーズマーケット」と題して、九州でのクルーズ客船誘致の必要性を講演して頂いた。



【講演風景】



【福本局長挨拶】



【クルーズの魅力を熱弁】

★ 海外向け九州クルーズ振興CD-R作成及びクルーズ船社商談会開催の意向アンケート（会員自治体向け）

～海外向け九州クルーズ紹介CD-R作成は、時期尚早か～

～外国クルーズ船社商談会開催は、チャンスを待って～

平成20年12月に、会員自治体港湾担当及び観光振興担当宛に九州クルーズ情報発信として、海外船社向けCD-R作成及びクルーズ船社商談会開催の意向アンケート調査を行いました。

平成21年1月30日までのご回答を集計した結果は、

- CD作成希望については、予算等確保の制約もあり、全体の1/3以下でした。
事務局としては、九州全体での作成を前提にしていたので、希望者のみによる作成は困難な状況であり、時期尚早と判断しました。
- 商談会開催については、全体の1/2以上の希望があったことから、前向きに検討していく方向で、VJC事業担当部署に予算要求を行っておりました。しかしながら、VJC本部から地方へのクルーズ関係予算が21年度は「0」との回答が来たとのことでした。
その結果、今年度のVJC予算を活用した商談会開催はできなくなりましたが、引き続き平成22年度においても要求していきたいと思っております。また、他の利用可能な予算情報が入りましたら検討してまいりたいと思っております。

★ 協議会シンボルマークの募集・決定

クルーズ(船旅)をもっと多くの方々に親しみやすさを知ってもらうため、九州管内のデザイン科を有する高校・専門学校・短大・大学へ、シンボルマークを公募したところ、13作品の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞1点を決定いたしました。

<受賞者>

最優秀賞 宮崎県立佐土原高等学校 産業デザイン科
大島美沙紀さん

優秀賞 宮崎県立佐土原高等学校 産業デザイン科
武田彩花さん

2つの作品は、船旅(クルーズ)を表わすオリジナリティーにあふれており、より多くの人々にクルーズの魅力を伝えるアイテムとして大きな期待を寄せています。

受賞者への表彰式は、田中会長の代理として宮崎運輸支局次長により下記のとおり行いました。

日時 : 平成21年3月16日(月) 12時40分～

場所 : 宮崎県立佐土原高等学校 校長室



【右から大島さん、武田さん】



【最優秀賞：大島美沙紀さんの作品】



【優秀賞：武田彩花さんの作品】

★ ～九州観光推進機構本部長訪問～

6月11日(水)、クルーズ振興について、大江本部長・高橋副本部長・三井海外誘致推進部次長を訪問し、クルーズ船の振興策について協力をお願いしました。

訪問者：師岡海事振興部長・藤田調整官、

川村企画観光部計画調整官、宮野国際観光課長、首藤国際観光課課長補佐

★「2007年の我が国のクルーズの動向について」発表（平成20年6月27日）

国土交通省（海事局外航課）は、この度、2007年の我が国のクルーズの動向に関するアンケート調査の結果をとりまとめ、報道発表をしましたので、お知らせいたします。

1. 2007年の我が国のクルーズ人口について

○2007年の我が国のクルーズ人口*は外航約9万6千人、国内約8万8千人、合計約18万4千人（対前年比3.9%増）となった。

2. 外航クルーズの動向について

○クルーズの方面別では、北欧、アジア地域が共に約26%、地中海地域が約13%の順となった。

○日本船社が運航する外航クルーズ船は、乗客数が約2万1千人と前年比約7%増加し、外国船社が運航するクルーズ船は、乗客数が約7万5千人と、前年比約14%の増加となった。

○クルーズの目的別では、レジャー目的で約93%で、前年（90.6%）に引き続き90%を超えた。

団体旅行や交流は前年に比べ減少している。

○クルーズの長さを示す人泊数別では、1泊～3泊のショートクルーズ利用客が全体の約46%、4泊～13泊のクルーズが全体の約44%となっており、全体の人泊数は約102万7千人・泊と初めて100万人を超えた。平均泊数は約10.7泊と前年よりやや増加した。

3. 国内クルーズの動向について

○国内クルーズの乗客数約8万8千人は前年に比べ4.3%の減少であるが、これは国内フェリー利用によるクルーズが減少したため。

○目的別では、レジャー目的が約80%を占め、このうちワンナイトによる利用は前年に引き続き減少した。また、セミナー、交流目的による利用は増加したものの、インセンティブ、団体旅行目的による利用は減少した。

○泊別数では、2～3泊が全体の約45%を占め、1泊～3泊で全体の約74%を占めた。

人泊数については、約24万5千人・泊、平均泊数は2.8泊で、前年とほぼ同じであった。

4. 外航旅客定期航路の動向について

○日本発着の外航旅客定期航路を利用した日本人乗客数は、約32万5千人と前年とほぼ同様、航路別に見ても前年とほぼ同様であった。

詳細は ↓ 下のアドレスをご参照下さい。 ↓

http://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji02_hh_000010.html

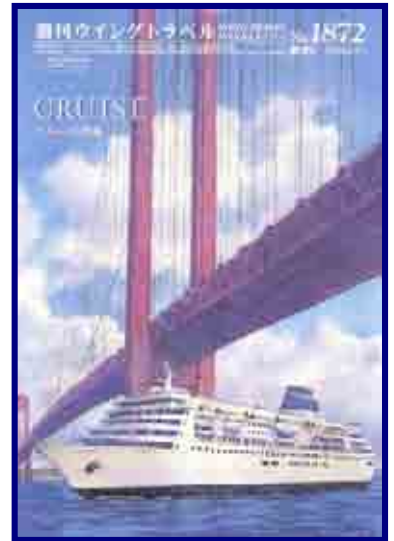
★ 週刊ウイングトラベル “2008年クルーズ旅行特集”のご案内

6月23日、(社)日本旅行業協会より60部の配付がありましたので、会員様には1部を協議会クルーズパンフレット送付の際、配付しました。

以下、【(社)日本旅行業協会事務局長挨拶からの抜粋】

JATAでは2005年にクルーズ旅行推進部会を設立し、2006年と2007年の2年間にわたり、クルーズ旅行のプロモーションをいろいろな形で業界一丸となって進めてきました。

本年も、現在クルーズ商品を企画販売する旅行会社や外航客船の総代理店、邦船各社など、広く業界一丸となってプロモーション展開を行いたく、今回そのひとつとして業界の皆さま向けに週刊ウイングトラベルとの協力で「2008年クルーズ特集」のタブロイド判12頁を制作いたしましたので配布させていただきます。クルーズの普及と50万人の創出に皆さまのご支援とご協力を今後ともよろしくお願いいたしたく存じます。



★ 10月1日、観光庁発足

平成20年10月1日、「観光立国日本」推進のための体制強化等の一環として、国土交通省の外局として観光庁が発足しました。

◎観光庁は何をやるのか？

- ・観光地づくり : 国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを支援します。
- ・国際観光 : 海外との観光交流を拡大します。
- ・観光産業 : 旅行者ニーズに合った観光産業の高度化を支援します。
- ・人材の育成・活用 : 観光分野に関する人材の育成と活用を促進します。
- ・関連施策 : 休暇取得の促進や日本人海外旅行者の安全対策など観光をしやすい環境の整備を行います。

◎観光立国実現のための5つの目標

- ・訪日外国人旅行者数 : 1000万人
- ・日本人の海外旅行者数 : 2000万人
- ・観光旅行消費額 : 30兆円
- ・日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数 : 4泊
- ・我が国における国際会議の開催件数 : 5割増

★ 今年就航する主な新造船 (日本海事新聞H. 21. 1. 13付け)

～新造船就航3月から10隻～

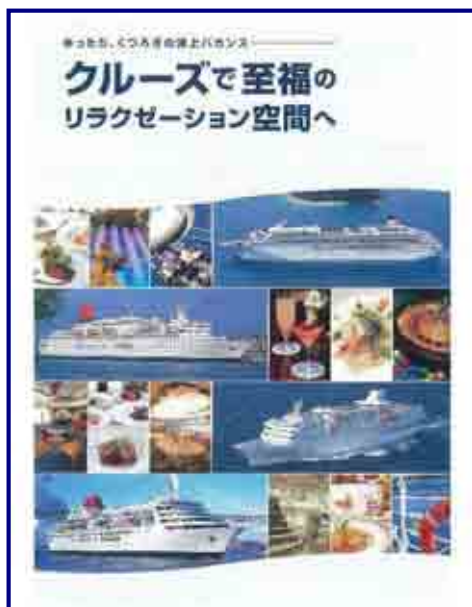
欧米大手クルーズ船社を中心に今年は大小10隻の新造船が就航し、うち5隻が10万総トンを超えるメガシップとなっています。

今後就航する主な新造船

船名	船型	竣工	造船所	運航会社
2009年				
アイダルーナ	68,500	3月	独、マイヤーベルフト	独、アイダクルーズ
コスタルミノザ	92,700	4月	伊、フィンカンティエリ	伊、コスタクルーズ
コスタパシフィカ	114,500	5月	伊、フィンカンティエリ	伊、コスタクルーズ
MSC スプレディダ	133,500	6月	仏、STX ヨーロッパ	伊、MSC クルーズ
シーボンオデッセイ	32,000	6月	伊、Tマリオティ	米、シーボンクルーズライン
セレブリティイキノス	122,000	8月	独、マイヤーベルフト	米、セレブリティクルーズ
カーニバルドリーム	130,000	9月	伊、フィンカンティエリ	米、カーニバルクルーズライン
オアシス・オブ・ザ・シーズ	220,000	11月	仏、STX ヨーロッパ	米、ロイヤルカリビアンインターナショナル
シルバースピリット	36,000	12月	伊、フィンカンティエリ	米、シルバークルーズ
MSC マグにフィカ	89,600	12月	仏、STX ヨーロッパ	伊、MSC クルーズ
2010年				
船名未定	92,700	3月	伊、フィンカンティエリ	伊、コスタクルーズ
船名未定	32,000	春	伊、Tマリオティ	米、シーボンクルーズライン
船名未定	68,500	春	独、マイヤーベルフト	独、アイダクルーズ
MSC マグにフィカ	90,000	春	仏、アーカーヤーズ	伊、MSC クルーズ
F3 プロジェクト No. 2	150,000	春	仏、アーカーヤーズ	米、ノルウェージャンクルーズライン
船名未定	116,000	春	伊、フィンカンティエリ	英、P&O クルーズ
セレブリティエクリフス	118,000	夏	独、マイヤーベルフト	米、セレブリティクルーズ
ジェネシスクラス No. 2	220,000	夏	フ、アーカーヤーズ	米、ロイヤルカリビアンインターナショナル
2011年				
カーニバルマジック	130,000	春	伊、フィンカンティエリ	米、カーニバルクルーズライン
ソルスティスクラス	122,000	秋	独、マイヤーベルフト	米、ロイヤルカリビアンクルーズリミテッド
2012年				
船名未定	122,000	秋	独、マイヤーベルフト	米、セレブリティクルーズ

★ (社)日本外航客船協会 (JOPA) の「広報パンフレット(改訂版)」配付

(社)日本外航客船協会よりクルーズ客船用「ゆったり、くつろぎの洋上バカンスクルーズで至福のリラクゼーション空間へ」及び国際定期旅客船用「中国・韓国へは船で行こう！ゆったり気ままに出かけよう」の2種類の広報パンフレット紹介があり、会員に希望アンケートを取り11月に配付しました。



【クルーズ客船用パンフ】



【国際定期旅客船用パンフ】

★ (社)日本外航客船協会 (JOPA) 「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2008」授賞式

～グランプリに、『にっぽん丸「飛んでクルーズ北海道」』が輝く～



【授賞式記念撮影】

(社)日本外航客船協会が平成20年度から新たに新規事業として企画・実施した「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2008」で、応募23点の中から、『にっぽん丸「飛んでクルーズ北海道」』が最高賞の「グランプリ」に選ばれ、2月2日東京で授賞式が行われた。

また、「ベスト・クルーズカップル・オブ・ザ・イヤー」には、高橋英樹・美恵子ご夫妻が受賞されました。